

# 2023年日本経済の現状と課題

大正大学地域構想研究所教授

小<sup>こ</sup>峰<sup>みね</sup>隆<sup>たか</sup>夫<sup>お</sup>

- \* コロナからの回復後の景気はどうなるか
- \* リスク予想はコロナから米中の景気悪化に
- \* エネルギー除いても2%を超えた物価
- \* 交易条件の悪化が実質賃金低下の原因
- \* 国内インフレを加速させる日銀の金融政策
- \* 輸入インフレ対応で賃金を上げてはいけない
- \* 異次元金融緩和の修正は不可避
- \* 歯止めが効かなくなった財政拡張
- \* 想定より早まる総人口の1億人割れ
- \* 私が提案する異次元の少子化対策



**柴生田** それでは開会いたします。（拍手）

ここ何年かすっかり常連になっていただきました。小峰隆夫さんにおいでいただきました。1947年のお生まれで、経済企画庁に入られ、われわれの知っているいわゆる経済白書執筆をされた最後の世代ということでございます。日本経済の状況について毎年非常に明確に現状と見直しをお話しいただいております。本日も2023年の状況について詳しくお話をいただきたいと思います。

それでは小峰さんよろしくお願いいたします。

**コロナからの回復後の景気はどうなるか**

**小峰** どうも皆さんこんにちは。（拍手）今ご紹介いただきました小峰です。

今回は今の日本経済がどういう状況になっていて、どんな課題を持っているかについて、私が日頃考えているところをお話ししたいと思います。

「日本経済の現状と2023年の標準的な展望」ということで、標準的な見方はこんな見方ですというのをご紹介したいと思います。

図表1はここで話しするときにいつも最初に見ていただいているものでして、コンポジット・インデックスという九つの代表的な指標を合成した非常に単純な指標ですけれども、日本の経済は必ず波を打って変動していて、これがまさに景気の循環というものです。いちばん新しいところは右側に丸をつけております。シャドーの部分は景気の後退期で、ドカンと落ちて